

令和元年度境港市スポーツ推進審議会 議事録

【開催日時】 令和元年9月30日（月） 16:00～17:00

【会場】 第1会議室

【出席者】 長谷川伸・拝藤みゆき・竹内健治・善波周・福留史朗・高木敏行・坂井敏明
築谷直人・田辺洋範（以上9名）

【欠席者】 増岡茂

【事務局】 松本敏浩（教育長）・黒崎享（生涯学習課長）・竹内勝（生涯学習課文化体育係長）
酒井達矢（生涯学習課文化体育係主事）

《内容》

1. 開会

2. 教育長あいさつ

本年6～7月に、境港公共マリーナ及び美保湾において2019レーザー級世界選手権が開催された。小さな町で開催できるか心配していたが、鳥取県セーリング連盟をはじめとする多くの皆様のご協力により、大会は評判が高く、多くのお褒めをいただいた。

3. 会長及び副会長の選出

⇒事務局からの推薦により、善波委員を会長、増岡委員を副会長に選出。

4. 報告事項

⇒事務局から、（1）平成30年度及び令和元年度保健体育費の主要事業（2）平成30年度体育施設の利用状況のほか、2020東京オリンピック聖火リレーの概要について説明。

5. 意見交換（及び報告事項に対する質疑）

（委員）体力テストの人数が少ないが、公民館にチラシを配布しているか？申込方法は？

（事務局）チラシは公民館に配布しており、事前申し込みは不要。以前は体力テストの日に開催していたため、同じ日に市民体育館でイベントをしている団体の会員に寄ってもらっていた。

（委員）無料開放して参加者はどうか？

（事務局）無料開放のついでに体力テストに来る人数は少ない。スポーツ推進委員からは、各地区でやってはどうかとの意見が出ているが、テストには第2市民体育館程度の面積が必要なので難しい。国の指針では80～90程度の参加者数が必要。他のイベントとの抱き合わせも一案。

（委員）スペースを考えると、市民体育館中心でやらざるを得ない。年代別にどう対応するか。高齢者は、高齢者のイベントとの抱き合わせ。働き盛りの年代にどう参加してもらうか考えなければならない。

（事務局）境港市で策定した健康づくり推進計画を踏まえ、関係団体と連携しながら、若い世代の参加を考えたい。

（委員）働き盛り世代のスポーツ実施率は、鳥取県・全国的にも低い。企業内でのスポーツ活動をマスコミに取り上げてもらうのも有用。県民スポレク祭は予選会があるか？予選会があれば、多

くの市民に参加してもらうことができる。

(事務局) 予選会は行っていない。

(委員) 地域の運動会をもっと活発にしてもらおうとよい。市民体育館では、11月9日、鳥取県あいサポートフェスティバルを開催するが、入口にスロープがない。簡易スロープでも良いので検討してほしい。国際交流については、在住外国人との交流を進めてほしい。

(事務局) 同フェスティバルには、選挙で使っている簡易スロープを設置して対応する。市民運動会では、中学生が役員として参加し、地域を盛り上げてもらっており、境港市は進んでいると思っている。

(委員) 境港市体育協会が市民体育館を管理する中で、熱中症対策が課題となっており、市と協議する予定。大会によっては、冷房使用が前提になっている。そういう時代になってきた。

(委員) 中体連の大会は冷房使用が原則となっているため、屋内競技は実施できる体育館に限られ、会場を固定して開催している。境港市民体育館は冷房がないため対象外。ハンドボールの大会を東部で開催することとなり、運搬が大変だった。大型扇風機を使っても、熱風が回るだけで意味がなく、熱中症は出る。対策として、イベント業者が使うような冷房装置の使用を検討したが、使用料が高いため断念した。

(委員) スポレク祭の位置付け、特に小中学生の位置付けがよく分からない。バスケットボールなど、競技によっては、中体連の県大会として行われている。そのため、小中学生の参加に対し補助が出ている。だが、中学生は他に色々な大会があるので、必要ないのではないかとも思う。整理する必要がある。中学校では、部活動のあり方の検討の中で、参加する大会の精選も入っている。

(委員) スポレク祭は、競技とレクリエーションの要素を兼ね備えているが、レクリエーションの要素が薄まってきている。

(委員) 小体連では、スポレク祭の市予選に水泳・陸上に小学校単位で参加している。水泳は市総体の予選も兼ねているため参加料が必要ないが、陸上は市選手権として開催するため参加料が必要。ただ、小学生で個人負担は好ましくないため、各校のPTAから補助をもらっている。ただ、両競技とも連合体育大会として別に行っているため、必要性を問う声が挙がっている。

(委員) 境港市ではスポーツ実施率を調査しているか？

(事務局) 過去に調査したことはない。

(委員) 国・県では、無作為に選んだ者に対し、1週間のスポーツ実施回数(スポーツ実施率)を調査している。これにより、世代別、男女別のスポーツ実施状況(頻度、内容など)を把握することができ、健康づくりなどの施策に生かすことができるので、ぜひ調査していただきたい。なお、鳥取県のスポーツ実施率は、数年前は52%程度だったが、今回は48%だった。

(事務局) 境港市が策定している健康づくり推進計画でアンケートを実施したように思うが、その結果の中でも、若い世代が運動を行っていないことが分かっている。

(委員) スポーツ基本法の中に、スポーツ推進計画の策定が盛り込まれているが、鳥取県内で策定しているのは鳥取市・米子市・伯耆町のみ。行政側では、策定は努力目標という見解だが、個人的には、努力目標をわざわざ法に盛り込むことはないと思っている。また、鳥取県のスポーツ推進計画は今年度改訂したが、以前のものとは内容を大きく変え、より具体的な取り組みを盛り込んでいる。

(事務局) 境港市民温水プールについて、障害者の利用者の推移を見ると、前年より2割以上増え

ており、利用者のニーズが感じられる。水泳は障害者に最も人気があるスポーツなので、ぜひ障害者向けの水泳教室をやってもらいたい。鳥取市は、リハビリを兼ねてプールで水中運動教室を行っている。卓球バレーもユニバーサルなスポーツとして広めてもらえると皆ができる。

(委員) 水泳は育成会がやっている。回数を増やすなど。

(委員) 特別支援学級の生徒は、長期休暇は部活動がないので、一緒にやってもらえると良い。

6. 閉会